

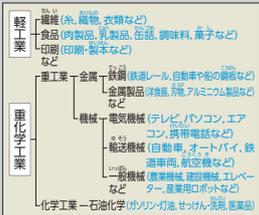
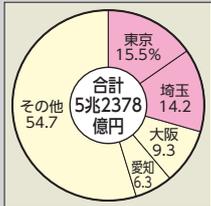
# デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.246-247 臨海部から内陸部へ移りゆく工場
2. 目標
  - (1) 工場の立地には、工業用地や原料の輸送、製品の輸送などの要因が関わっていることを、東京大都市圏に集中する出版業や石油化学工業を事例に理解できる。
  - (2) 郊外や内陸へ工場が移転してきた背景について、人口増加による都市圏の拡大と交通網の発達とを関連付けて考察できる。

## 3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・ 出版業と石油化学工業がそれぞれどのような場所に立地するか、理解している。
思考・判断・表現	・ 工業の立地条件について、原材料と消費地の関係から考察している。 ・ 郊外や内陸へ工場が移転してきた背景について、人口増加による都市圏の拡大と交通網の発達を関連付けて考察している。

## 4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 印刷工場の写真を題材にし、本時の課題をつかむ。	 p.246 ①  p.160 ④  地図帳 p.129 ①	○ 「印刷工場での製本作業の様子」を題材にし、東京都や埼玉県で印刷業が盛んなことをつかませ、工業への関心を高めさせながら、本時への導入を図る。 ○ 印刷業は工業の一種であることをつかませる。
	2. 関東地方の工場の分布から、盛んな工業を予想し、学習課題への見通しを持つ。	関東地方ではどのような工業が盛んなのか予想してみよう。	○ 地図帳を活用し、印刷工場以外にも多くの工場が集中していることに気付かせる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
<b>学習課題：京浜工業地帯や北関東工業地域の形成は、関東地方の人口の変化とどのように関係しているのだろうか。</b>			
展開	3. 京浜工業地帯では印刷業が盛んな理由を多面的に考察する。	 p.246 ②  「本ができるまで」	○ 印刷業は、人口や情報が集まる地域で盛んなことに触れる。 ◆ 東京大都市圏に見られる出版・印刷業を事例に、その立地には人口や情報などの要因が関わっていることを理解させる。
		なぜ東京や埼玉では印刷業が盛んなのだろうか。	

展  
開  
整  
理

4. 関東地方では印刷業のほかにもどのような工業が発展しているかを調べ、その理由を考える。



地図帳 p.129 ①

人口が多い関東地方では、ほかにどのような工業が発展しているのだろうか。

5. 石油化学工業が臨海部で発展している理由を考察する。



p.246 ③

なぜ臨海部では石油化学工業が発展しているのだろうか。

6. 北関東の工業の変化とその理由を考える。



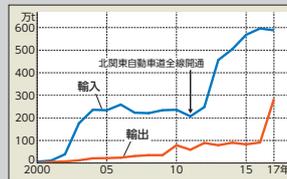
地図帳 p.129 ②

二つの資料を比べ、変化してきたことを挙げてみよう。

7. 茨城港の輸出・輸入のグラフを見て、気付いたことや今後予測されることを話し合う。



p.247 ⑦



p.247 ⑧

このような変化がなぜ起こったのか考えてみよう。

8. 本時のまとめをする。

東京大都市圏への人口の集中が、京浜工業地帯と北関東工業地域に与えた影響について説明しよう。

9. 学習課題への振り返りの活動を行う。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

○ 関東地方で盛んな工業を地図から読み取らせる。

◆ 沿岸部で石油化学工業、内陸部で機械工業が盛んなほかに、食品工業も盛んであることに気付かせる。

○ 東京湾の臨海部で石油化学工業が盛んな理由を考えさせる。

◆ 原料の原油のほとんどが輸入であることから、輸送に便利な臨海部に発達していることを考察させる。

○ 北関東の工業の変化を読み取らせる。

◆ 古くから小規模な機械工業が発展していたが、現在は自動車や電気機械の大規模な工場が立地していることを理解させ、背景には都市圏の拡大と交通網の整備があることを考察させる。

◆ 北関東自動車道の全線開通により、輸入貨物の取扱量が増加したことなどを読み取らせる。

◆ 工業の発展と交通網の整備が深く関わっていることを推察させる。

◆ かつては東京湾の周辺に工場が多く立地していたが、住宅不足や公害などが発生したことで、内陸部へ工場が移転したことなどを説明できたか確認する。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。